

トライアスロン 新世紀

TRIATHLON NEW WAVE

トライアスロンの歴史を読み解き、新時代へ導く



2012年4月7日(土)・8日(日)

ASTCトライアスロンアジア選手権(2012/館山)

2012年(平成24年)4月6日 NO.1 創刊号



公益社団法人 日本トライアスロン連合(JTU)

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-9-10 青山キングビル3F

電話:03-5469-5401 FAX:03-5469-5403 Email:jtuoffice@jtu.or.jp

<http://www.jtu.or.jp>

発行

ロンドン オリンピックは 館山から



2012年4月1日から公益社団法人に移行した日本トライアスロン連合(JTU)の21世紀は、トライアスロンの活躍によって開かれるだろう。

海から陸へと、自然をあますところなく享受するトライアスロンは、人のもつ多面的な能力が試される、まさに新たな時代にふさわしいスポーツといえるだろう。選手たちは、そしてトライアスロンは、日本の復興とともに歩み続けるだろう。

このシリーズは、トライアスロンの発展と進化を、アップデートに伝えていくものである。

4度目のオリンピック挑戦

(公社)日本トライアスロン連合(JTU)ナショナルチームのオリンピックのメダルへの挑戦は、今年の8月に行われる第30回夏季オリンピック競技大会(2012/ロンドン)で4回目を迎える。

トライアスロン競技は、女子が8月4日(土)に、男子は8月7日(火)にロンドン市内のハイドパークがメイン会場となり、スイム競技が行われ、バイクはバッキンガム宮殿前を通過するコースだ。

シドニーで庭田清美が14位、アテネでは関根明子が12位そして北京では、井出樹里が5位に入賞し、ロンドンへの期待は高まるばかりだ。

それではまず、ナショナルチームのこれまでのオリンピックでの成績を振り返ってみよう。

2000 シドニー



女子:	男子:
庭田清美 14位	小原工 21位
平尾明子 17位	福井英郎 36位
細谷はるな DNF	西内洋行 46位

2004 アテネ



女子:	男子:
関根明子 *12位	田山寛豪 13位
庭田清美 14位	西内洋行 32位
中西真知子 20位	*旧姓平尾

2008 北京



女子:	男子:
井出樹里 5位	山本良介 30位
庭田清美 9位	田山寛豪 48位
上田藍 17位	

このように、順位をみると着実に上昇しており、ナショナルチームはメダル獲得にはあと一步のところにいる。特に北京オリンピックの井出は、ランで一時は4位を走り、あと一步でメダルに手が届く戦いを行ったことは記憶に新しい。

オリンピック代表第一号は上田

北京オリンピック後、JTUでは年度ごとに選手強化案を策定し、年間数回のナショナルチーム合宿を行いながら選手強化に努めてきた。

現在のナショナルチーム(認定期間:2012年3月1日~2012年5月末)は以下の通りとなっている。

日本代表ナショナルチーム

2012年第2期JTUナショナルチーム選手
認定期間:2012年3月1日~2012年5月末(3ヵ月)

女子	上田 藍	シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター
	崎本 智子	枚方スイミングスクール
	庭田 清美	アシックス・ザバス
	井出 樹里	トーシムパートナーズ・チームケンズ
男子	細田 雄一	グリーンタワー・フェリック・稲毛インター
	杉本 宏樹	グリーンタワー・稲毛インター

この6名が現在の日本のトップアスリートとして、名実ともに実績を積み重ねてきたといえる。

それでは、ロンドン・オリンピック日本代表選手はどう決まるのだろうか。

2011年8月に発表された代表選手選考基準では、評価対象大会(ITU世界選手権シリーズなど)で一定の成績に達した選手を代表選手とするとされた。

そこで、女子の上田藍が2011年8月に行われたITU世界選手権シリーズロンドン大会で3位の記録から30秒以内のタイムで11位となり、ロンドン・オリンピックで一番手の代表選手に決定した。

今後は、女子はITU世界選手権シリーズ(2012年より名称がITU世界トライアスロンシリーズに改称)で1~3位となれば、自動的に代表となる。そして、日本選手がITUオリンピックポイントでこのままの成績を維持すれば、あと2枠の出場権を有するが、今年5月末までに上記の成績を収める選手がいなければ、これまでの成績を考慮して決められる。

男子は、2011年には選考基準を満たす選手が現れなかった。したがって、2012年大会での選考となるが、女子と違うのは4月7日に千葉県館山市で行われる2012ASTCアジア選手権で1位となれば、代表となること。その後、5月末までのITU世界トライアスロンシリーズで8位以内となれば、代表となる。それでも決まらない場合、5月末時点のオリンピック出場枠の残りを、それまでの成績を考慮して決められる。

アテネ・オリンピックまでの選考方法では、オリンピック直前(おおむね6月)に代表選手が決定した。しかし今回は、前年から成績に応じて代表に選出される制度となり、オリンピック本番への準備期間を十分にとれるメリットが生まれた。

今週末のアジア選手権に注目

この4月から5月末までの代表決定に重要な期間について、飯島健二郎ナショナルチーム監督は、「これまでのオリンピック直前とくらべて、全体的な底上げができています。代表を早めに決めた効果と思う。4月のアジア選手権、そして世界トライアスロンシリーズ開幕へ向けての準備は整っている」と、選手たちの調子が上がってきていることを証明した。

ここで、上田選手の声聞いてみよう。

「昨年、代表選手に決まったことで、ベーストレーニングを十分に行うことができた。ここから、スピード練習に入っていけるので、北京とは違って充実した練習を積むことができていますのがメリット。落ち着いてトレーニングできるのは何より。過去のオリンピックを見ると、女子の場合シドニー、アテネとスイムは遅いがバイク、ランと追い上げられる選手がメダルを獲得している。いまは、スイムのタイムもベストが出ているし、いい結果に繋がれると思う」

このように、早期に代表になったことにより、苦手な部分の克服もでき、とてもいい状態で今年のシーズンに入っていけることを語っている。

女子では、上田を崎本、庭田、井出が後を追うが、僅差で足立真梨子(トーシムパートナーズ・チームケンズ)が追う。この2カ月のレースに注目したい。

男子で、他の選手を一步リードしている細田選手はどうだろう。

「この冬は過去にないくらいの練習が積めた。まずケガがないことが一番。3種目とも動きが良くなって、スピード練習をしていないけれどタイムが上がってきた。10kmの持ちタイムが29分代に入る準備ができてきた。館山のアジア選手権で代表権を獲得しておきたいところ」

アジア選手権での代表獲得に向けて、万全といったところだ。

男子では、杉本のほかにオリンピック経験者の山本良介(トヨタ車体)と田山、そして下村幸平(BOMA RACING / JSS 深井)が館山での一発逆転をねらっている。

4月から5月にかけて、代表選手獲得のために、各選手は最高のパフォーマンスを発揮するだろう。そして、今週末のアジア選手権館山大会からは、目が離せなくなりそうだ。



第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)トライアスロン競技
2012年8月4日(土)女子競技 / 8月7日(火)男子競技